

福音の園だより

【第二十六号 二〇〇七年一月 五日発行】

350・0016 埼玉県川越市木野目一八七八番地一

介護保険事業者番号 一一七〇四〇二三八一

平成十八年度「高齢者雇用優良事業所 協会会長賞」受賞

特定非営利活動法人 福音の園・埼玉 事務局

☎ 049・230・1111

FAX 049・230・1112

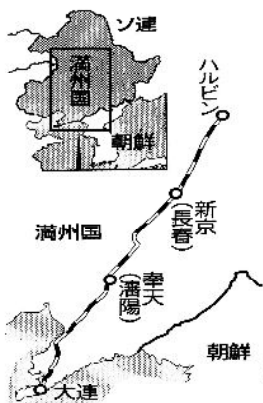
ご家族の声

三年も待っていてくれた妻なので

妻が福音の園さんにお世話になって、一月十日で二年が経ちました。恋愛結婚でも何でもないので、何となく行きたいという気持ちになり、毎日のようにお邪魔しています。

南満州鉄道(株)に入社した兄を

頼って満鉄に入社したのは十七才でした。その後結婚した兄家族と一緒に実家へ帰りました。満州へ戻る前日、母親から見合いをしろと言われ、見合いに帰ってきたのではないから見合いはしないと返答しました。ただ「おふくろの気に入っている人となら結婚してもいい。ただし三年後だ。三年待っていてくれるなら結婚してもいい」という条件を出しました。満州到着後、二週間位して見合い写真が送られて来ました。文通をしてしばらくしたら、会社から「手続きすれば別居手当が出るからすぐに入籍しなさい」と言われました。



三年経って、実家へ迎えに来て挙式をし、新妻を連れて再び満州へ戻りました。それから五年ほど生活をしていて敗戦 混乱の中を身一つで引き揚げてきました。三年も待っていてくれた妻なので、お邪魔でない限り面会に行くようにしています。今年も皆様にお世話になります。(Y・M)

お便り紹介

○園だよりをお送り下さいまして有り難うございました。(注・手打ちソバ行事のスナップ写真をご覧になって)父の好物だったうどんを毎日作っていたのを思い出しているような顔付きに思わず笑ってしまいました。(K・H)

○母の眼の輝きを見るたびに感謝しております。今年も宜しくお願致します。(S・S)

○いつも母を暖かく見守って下さいます。誠ありがとうございます。見舞いに行つた時、母はいつもきれいな姿。布団や部屋中も清潔で感動、感激致します。(E・S)

○訪問の度に母が皆様の笑顔の中で暮らさせて頂いております。いつも感謝しております。本日、荷物を同封いたします。ベストを母に、クリスマス迄にと編み始めたもの間に合いませんでした。遠くに在って、思うようには面会できませんが、表情豊かに、明るくなってきた母に会うと嬉しい気持ちで帰礼できます。本当にいつも有りがとうございます。(H・K)

○昨年は皆様方が楽しく過ごしているのを拝見して嬉しく思いました。(A・S)

新年度を迎えるにあたって

「利用するプロ」に選ばれたという自覚を

グループホーム福音の園・川越 ホーム長 杉澤 卓巳
◎「それまで幾つかのホームを訪ね、その度に失望し、殆んど諦めていた私は迷わず入所を決めました。」

◎「グループホームという運営方式から与えられる色々な刺激、行き届いた「プロ」の介護のお蔭と感謝している。」

◎「本当に安心してお任せできる環境にある処は少なく、どうしたら患者の人間としての尊厳を第一に考え、残された能力を少しでも活かしてくれるホームがないものかと、ホトホト忠案に暮れておりました処、福音の園に出会うことができました。」

(「ご家族の声」・一部抜書き)

先月のスタッフ研修・会議は、「介護の切り札・グループホームケアに徹しよう」というテーマで学びました。右記「ご家族の声」を紹介しながら、「ご家族は試行錯誤されながらも様々な福祉サービスを利用してこられた「利用するプロ」でいらっしゃる」と説明しました。「色々な介護施設のケアサービス」を利用し、研ぎ澄まされた「利用者の眼」でグループホームを選ばれました。「利用するプロ」の期待に応えるには、「グループホームとしてのケア」に徹した「介護のプロ」を目指す必要があると述べました。そこで初めて、福音の園・川越は「画一的な支援の押し付けにならないように、(介護の切り札である)グループホームケアを通して」お一人ひとりの「生活作り」をお手伝いしてまいります」と、胸を張って言えるのだと一同再確認いたしました。

御礼

緑茶

M・S様(調布市)